

## 調査事項、調査内容および所感

会派名	そうせいと維新	氏名	菊地 格夫
調査日時	2025（令和7）年 11月11日（火） 2025（令和7）年 11月12日（水） 2025（令和7）年 11月13日（木）	13:30 ~ 15:00（宇都宮市） 09:30 ~ 11:00（高崎市） 09:30 ~ 11:00（長野市）	
調査事項	11月11日（宇都宮市）認知症事故救済事業について 11月12日（高崎市）「子育て・介護SOSサービス」事業について 11月13日（長野市）ながのこども館「ながノビ！」の視察		
調査内容		別紙記載	
所感		別紙記載	

調査内容：

＜宇都宮市 観察報告書＞

### 1. 観察概要

日時：2025（令和7）年 11月11日（火） 13:30 ~ 15:00

観察先：宇都宮市役所（栃木県宇都宮市）

目的：認知症事故救済事業について調査するため。

### 2. 宇都宮市の概要

宇都宮市は北関東最大の都市であり、人口は約51万人。交通の要所としての機能を持ち、駅東エリアには大企業の工場が立地しており、市税収入の増加に寄与している。2年前にLRT（次世代型路面電車）が東側区間で開通し、今後5年以内に西側区間へ延伸予定。産業団地を貫く形で整備が進み、都市構造の再編が進行中である。文化・スポーツ面でも活発で、「ジャズの街」「餃子の街」として全国的に知られている。

### 3. 事業の概要

認知症が原因で生じた事故等による経済的損失を軽減することを目的に、令和5年度より実施。対象者は「日常生活自立度I以上かつ寝たきり度J以上」に該当する高齢者で、一定の要件を満たす方を自動的に保険加入とする。また、見守りグッズ（GPSなど）を申請した方のうち希望する方も対象となる。保険料は全額市が負担。保険会社は三井住友海上保険。

令和6年度予算額は約1,050万円（対象者3,699人、対象率2.7%）。一人あたり保険料は1,037円、賠償責任保険分は1,740円。保険の補償金上限は2億円（保険会社が提示した一般的基準額）。財源は国の「先進的な認知症施策推進事業」関連交付金を活用。本制度は、過去に全国で発生した「認知症高齢者の徘徊による鉄道事故の多額賠償請求」を契機として創設された。

### 4. 運用体制と他制度との連携

地域包括支援センターおよび見守りグッズ配付事業と連携。見守りグッズを希望した方には、認知

症事故救済事業の案内も実施。福祉・介護現場における新たな業務負担は特に発生していないとの回答。第三者委員による判定委員会を設置し、事故報告内容を検証の上で保険適用可否を判断。保険会社の一任とはしていない。

## 5. 適用実績

これまでに対象となり得る事例は 1 件あったが、賠償額が少額であり、示談により処理されたため、現時点では給付実績はなし。ただし、鉄道会社等との事故を想定した補償枠は整備済みで神戸市の先行事例を参考に制度設計がなされた。

## 6. 主な質疑応答

対象者の認知度のレベルは具体的にどんな人か？

→「日常生活が概ね自立している方」であり、車の運転が可能な人も含む。ただし自動車事故は自動車保険の対象となるため、本制度の対象外。

財源と持続性についてはどうか？

→予算は年約 8,000 万円規模に対して決算は約 5,000 万円。24 時間対応のため待機人件費が高額であり、議員からは効率面の課題指摘もあるが、市民の安心感向上という点では高い評価を得ている。

詐欺や悪用の可能性についてはどうか？

→現時点では確認なし。判定委員会で慎重に検証している。

## 7. 秋田市における事業可能性

秋田市は高齢化率が全国平均を大きく上回っており、今後、認知症に起因する事故（徘徊・接触・転倒など）の増加が予想され、このような制度は「被害者・加害者双方の救済」を図る点で先進的であり、地域包括ケアの新たな柱になり得る。ただし導入にあたっては以下の論点整理が必要である。

- ・対象範囲の明確化（秋田市での鉄道事故は少ないだろうから、車運転・交通事故を含むか否か）
- ・秋田市の既存制度（介護保険、地域見守りネットワーク）との役割分担
- ・保険料の市負担体制の持続可能性（予算の規模感）
- ・判定・給付の公正性確保体制

## 8. 所感

宇都宮市の認知症事故救済事業は、制度としてまだ発足初期にあるものの、「認知症になっても安心して外出できるまち」を目指す理念のもとに設計されている。特に、一定要件を満たす高齢者を自動的に加入させる仕組みは、行政の事務効率と公平性の両立を図ったものと言える。

財政面では課題も見られるが、認知症施策の一環として「市民の安心を支える社会的セーフティネット」を築く意義は大きい。秋田市においても、徘徊・事故等に備える補償制度の整備は、地域包括支援の次のステップとして検討に値する。しかし、宇都宮市で本事業が行われるに至った経緯は LRT の導入により今までになかった交通インフラが街に新たに生まれたことで、認知症の方の徘徊中に接触する可能性に配慮したことであり、本市とは背景が異なる。そのため、同様の事業の成立は難しいと感じるが、本事業のように「安心を実感できる制度」をどのように地域特性に合わせて構築できるか、今後の政策課題として注視していきたい。

宇都宮市 基本情報  
人口 約 51.7 万人  
面積 416 平方キロメートル  
市議会 定員 45 名  
令和 6 年度予算総額 約 4,102 億 3,415 円  
(一般会計 2,427 億円)

秋田市 基本情報  
人口 約 30 万人  
面積 906 平方キロメートル  
市議会 定数 36 名  
令和 6 年度予算総額 2,6222 億 1,604 万円  
(一般会計 1,439 億 9 千万円)

## ＜高崎市 観察報告書＞

### 1. 観察概要

日時：2025（令和 7）年 11 月 12 日（水） 09:30 ~ 11:00

観察先：高崎市役所（群馬県高崎市）

目的：「子育て SOS サービス」および「介護 SOS サービス」事業について調査するため。

### 2. 高崎市の概要

高崎市は群馬県の交通の要所であり、新幹線や高速道路網が交差する北関東の拠点都市である。平成 23 年に中核市に移行し、現在人口約 37 万人。面積は約 460 平方キロメートル。地域ブランドとして「だるま」と「パスタの街」が知られ、毎年秋に開催される「キングオブパスタ」は今年で 17 回目を迎え、地域活性化の象徴的イベントとなっている。

### 3. 福祉政策の特徴

中核市の中でも早期に児童相談所を設置した自治体であり、全国で 6 番目に自前の児相を整備した。設立までに 6 年を要したという。また、市独自の発想に基づく「SOS サービス」を展開し、現在では介護・子育て・高齢者支援など 6 事業を包括的に実施している。これらは「待つ福祉から出向く福祉へ」という理念のもとで展開されており、市民から高い評価を得ている。

### 4. 子育て SOS サービスの概要

開始年度：平成 31 年度

運営主体：高崎市社会福祉協議会（市から委託）

対象：妊娠期～就学前児童の保護者

内容：家事・育児支援（掃除、調理、買い物、沐浴準備など）、および子育て相談

利用方法：電話申込のみ、登録不要。原則 1 時間単位で利用可（250 円／時）

実績：令和 6 年度 3,473 件（決算額 3,678 万円）

スタッフ：ヘルパー 15 名、市職員派遣 2 名

サービスは「早期対応型」を意識し、悩みや不安の段階での利用を促進している。利用回数制限はなく、柔軟な対応を重視。特に掃除や調理など日常支援の需要が高い。ヘルパーは全員女性で、家庭の状況によって支援の正当性に戸惑うケースもあるが、市は「セーフティネットの一環」として意義を説明している。

周知・広報 :

広報紙・子育て冊子・新聞・ラジオ・YouTube など多様な媒体を活用。テレ東の番組「ここまでやるか行政サービス」で取り上げられる予定もあるとのこと。

今後の課題 :

- ・夕方・土日など利用集中時間帯への対応（断ることが多い）。「希望の日に予約が取れない」という声もあり、サービス需要の高さを感じるが、断ることが多くなっており課題として今後どうするか。
- ・急な支援要請への体制整備
- ・キャッシュレス決済への対応
- ・ヘルパーの人材確保と研修強化

## 5. 介護 SOS サービスの概要

開始年度：平成 28 年度（SOS 事業の原点）

対象：市内在住の 65 歳以上で介護を必要とする方（要介護認定不要）

内容：

訪問サービス：ご家族が急用となった・介護者が一時不在になった等の緊急時に、ヘルパーが即時訪問（身体介護・生活援助・見守り）を行う。

宿泊サービス：介護者が不在になる時、対象者が短期間宿泊（食事・入浴付き）できる施設を市が確保。

利用条件・料金例：

訪問サービス：1 時間あたり 250 円。月 5 回までが原則。

宿泊サービス：1 泊 2 食付 2,000 円（税込）、送迎付きで 3,000 円。月 3 回まで（2 連泊まで）という制限あり。

特長：

24 時間 365 日専用ダイヤル対応。電話 1 本で利用可能。

要介護認定不要、手続き簡素化。ヘルパーによる訪問が、保険サービスにつながるきっかけにもなっているという報告あり。「在宅・地域で暮らし続ける」支援や、介護離職防止、介護者の休息確保など多面的な狙い。

利用実績（令和 6 年度）：訪問 1,636 件、宿泊 34 件

予算規模：約 5,652 万円（うち約 4,800 万円が夜間待機人件費）

運営体制：24 時間 365 日体制。市内の介護ステーションに補助金という形で支払いをしている。地域包括支援センターとの連携を重視。

本事業は、介護離職防止や在宅介護者の負担軽減を目的としたものであり、緊急時に電話一本で支援を受けられる簡便性が特徴。介護専門職の対応を必要としない行為は対象外。継続的な支援が必要な場合は、地域包括支援センターへとつなぐ仕組みを整えている。

## 6. 主な質疑応答

予約は電話のみか？（子育て SOS）

→ 電話のみ。ネット等からも予約できるように改善を検討中。

ヘルパーの報酬は？（子育て SOS）

→ 嘱託職員の年収 300 万円程度、時給で 1,500 円程度の料金体系。

このような事業を積極的に事業化できた背景は？（介護 SOS・子育て SOS）

→ 市長主導で地域包括の機能を強化。トライアンドエラーでやれ、というタイプの市長。

予算と決算に差（不用額）があるが？（介護 SOS）

→ 予算に余裕を持たせてあるため不用額が出る。最大限活用できるように事業を促進している。

若者からの意見やクレームはあるか？（介護 SOS）

→ ないが、高齢者からのクレーム・要望はある。専門職の対応を必要としない行為（家の片付けや高所の作業など）をしてほしい、という要望が多い。

1 時間以上の利用したい場合はどうするのか？（介護 SOS）

→ 利用時間の制限はない。ただし、月 5 回までの制限はある。

## 7. 所感

高崎市の「SOS サービス」は、制度設計よりも“現場の声とスピード感”を重視した、市民中心型の福祉行政を感じた。特に、「待つ福祉から出向く福祉へ」という理念は、単なる支援メニューを超え、市民との信頼関係づくりにまで踏み込む哲学を持っている素晴らしいものだと感じた。

子育て・介護とともに、「困った」と声を上げる前に行政が動く体制が整っており、秋田市の地域包括支援体制や産前産後支援のあり方を考えるきっかけになった。また、夜間対応やキャッシュレス決済を検討していることなど、市民ニーズへの柔軟な姿勢も印象的であった。

費用対効果を超えた“人の温かさ”を制度として形にしている点に、高崎市の真価があると感じた。秋田市でも、「安心して声を上げられる福祉」の実現に向け、参考にすべき好事例である。高崎市でなぜこのような事業が行われたのかの経緯について、現市長の英断であるとの回答があり、また「費用対効果を考える事務方には思いつかない事業」という保育課長補佐からの言葉が非常に印象的だった。話を伺ってみての率直な感想としては、議員の立場からすると費用対効果などツッコミどころが大きいにある事業だと感じたが、市民目線からは充実した様々な市民サービスが存在する市への安心感は計り知れないと思う。

### 高崎市 基本情報

人口 約 37 万人

面積 459 平方キロメートル

市議会 定員 38 名

令和 6 年度予算総額 約 2,562 億円

（一般会計 1,682 億 9 千万円）

### 秋田市 基本情報

人口 約 30 万人

面積 906 平方キロメートル

市議会 定数 36 名

令和 6 年度予算総額 2,6222 億 1,604 万円

（一般会計 1,439 億 9 千万円）

## <長野市 観察報告書>

### 1. 観察概要

日時：2025（令和7）年 11月13日（木） 09:30 ~ 11:00

観察先：ながのこども館「ながノビ！」（長野県長野市）

目的：長野市 ながのこども館「ながノビ！」について調査するため。

### 2. 施設の概要

ながのこども館「ながノビ！」は、長野市城山公園内に位置し、昭和40年代に作られ老朽化した少年科学センターをリニューアルして誕生した施設である。令和2年に「城山公園再整備基本構想」を策定し、都市整備部都市緑地課が主体となって整備を進めた。指定管理者は（一社）長野市開発公社である。

整備は設計・施工一括発注（DB方式）で実施。総事業費は約10億円。うち建物の長寿命化8億円、遊具整備2.3億円、設計費0.3億円で、国の交付金により1/2補助を受けた。令和2年に計画を決定、令和4年に事業者選定、令和5~6年に工事を行い、令和6年7月28日にオープンした。

### 3. 施設の目的・運営方針

子育て世帯が天候に左右されず安心して過ごせる環境を提供し、子どもの知的成長を促す「質の高い遊び場」を目指す。対象は未就学児～小学校低学年で、文部科学省が定める36の基本動作を体験できる遊具を備える。有料の都市公園施設として運営しており、利用料金は条例で上限が定められている。

都市公園条例に基づき有料の施設とし、市外からの利用者の料金を高く設定している（特に大人の料金が高い）。当初の想定利用者は12万人だったが、開館1年目で16万人に達し、利用者数増を踏まえて入館料を100円引き下げた。市内外の利用者比は7:3

### 4. 施設運営と指定管理

指定管理料：年額約8,000万円（3年契約）

運営費：約1億5千万円（うち半分を利用料収入で賄う設計）

1クール2時間制・1日3クール制（平日は廃止済）

最大入場者：1クール160人

混雑時は入場制限を行う。今後は完全予約制の見直しも視野に入れている。

### 5. 遊具・空間構成

地上1階・地下1階の構造。

ボーネルンド社製の遊具や様々な遊具（県産材を仕様している木製遊具もあり）を用意し、身体活動と創造性を兼ね備えた空間となっている。「るるるデジタル」コーナーでは、マインクラフトを活用して城山公園を仮想空間で再現し、デジタル学習と遊びを融合させている。施設内のリサイクルコーナーでは改修前の少年科学センターで使われていた備品等があり、その昭和感に懐かしむ大人もいることだろうと感じた。

## 6. 主な質疑応答

市外利用者の確認方法についてはどのようにしているか？

→代表者の身分証明書で確認する。例えば祖父母が市内居住で孫が市外であっても市内料金扱い。

市内・市外の料金区分へのクレームはあるか？

→特に大きな問題は発生していない。

長野市内には他に屋内施設はあるか？

→大規模な屋内施設はない。既存施設（少年科学センター）が老朽化して、市民からの強い要望で新設したという経緯がある。

非常に魅力的な遊具が多いが、遊具の選定などは誰がしたのか？

→JV構成の乃村工藝社が中心。設計の段階から障害施設や保育施設の方々の意見を反映させた。

## 7. 特色・工夫点

- ・民間企業の設計力と市民意見を融合した「官民協働型設計」で出来上がった施設。
- ・有料化による利用者意識の向上と、利用料による運営コストの一部回収。
- ・以前無料だった駐車場を2時間600円と設定するも、施設利用者は2時間無料とし、1クール（2時間）で長居を躊躇する仕組みを新たに作った。
- ・「データに基づく料金見直し」を早期実行（1年の利用実績を根拠にすぐに2年目に実行）している点。

## 8. 所感

担当の長野市都市整備部公園緑地課 企画・緑育担当係長 小林祐也 氏は、企画立案から契約、運営段階まで一貫して関わり、現場を知り尽くした職員であった。施設案内の中では、利用者の声を即座に反映して改善を進めた具体例をいくつも挙げており、現場での「トライ＆エラー」を恐れず挑戦する姿勢が非常に印象に残った。

利用料金の見直しを含め、データを根拠に迅速に行動する姿は、行政職員の理想的な実践モデルと言える。「神は細部に宿る」という言葉がまさに当てはまる施設であり、行政担当者一人の情熱と行動力が、市民満足度を大きく左右することを実感した。

また、宇都宮市・高崎市・長野市の視察を通じて、「市長の英断による制度改革」と「担当職員の情熱による施設価値の向上」という二つの成功モデルを対比して見ることができた。良い行政サービスとは、トップの判断力と現場の創意工夫が噛み合ったときに最も力を発揮するのだと強く感じた。

### 長野市 基本情報

人口 約36万人

面積 834.8平方キロメートル

標高 最高2,353m／最低327m

市議会定数 36名

令和6年度予算総額 約2,828.5億円

(一般会計：1,709億5千万円)

### 秋田市 基本情報

人口 約30万人

面積 906平方キロメートル

市議会 定数36名

令和6年度予算総額 2,6222億1,604万円

(一般会計 1,439億9千万円)

宇都宮市役所訪問（2025年11月11日）



認知症事故救済事業について担当課から説明を受け、質疑応答を行いました。

高崎市役所訪問（2025年11月12日）



高崎市の「子育て SOS サービス」、「介護 SOS サービス」事業について担当課から説明を受け、質疑応答を行いました。

## 長野市ながのこども館「ながノビ！」視察



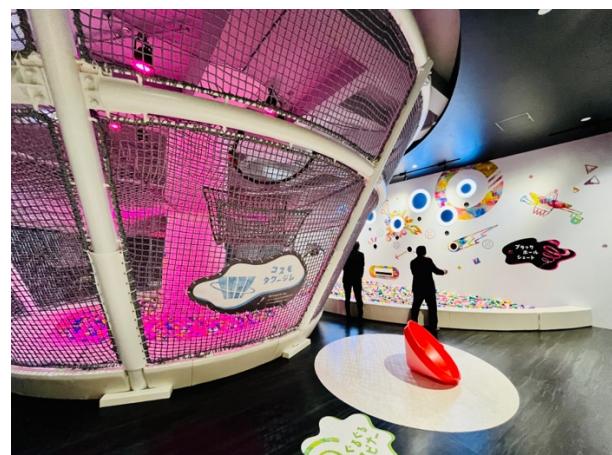
ながノビの施設外観



施設の中の様子 旧少年科学センターの階段やバックヤードの事務所スペースなどはそのまま使用



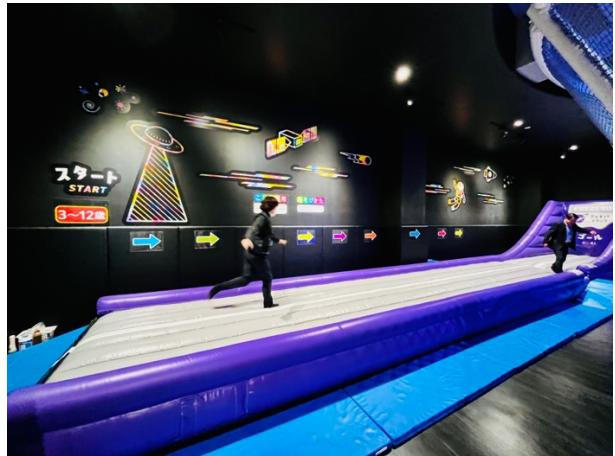
写真左 ボーネルンド社製の遊具



写真右 ネットのある遊具は外側からは登れない工夫がされている ボールプールと壁の穴は様々な年代の子どもが遊べる工夫になっている



写真左 授乳室は、施設の内側から 2名使用



写真右 室内でも走れる遊具もある



写真左 木製の遊具はとても高いため、一式を揃えて使用してもらうことを念頭においている  
使用して気に入ったら個人で購入する



写真右 「るるるデジタル」コーナーのマインクラフト ながノビもあり精巧に再現されている



どちらの写真も第3者の意見を取り入れた結果のもの。写真右は、色の色調を知るために最初は様々な色のカードが置いていただけだったが、あまりにも人気がないため、カラフルな半透明なブロックにして上から光を当てることで写真映えするスタイルに変更し人気が出た。トイレの小児用の低い手洗い場の導入は長野市の議員からの意見を取り入れたとのこと。





写真左 レクを受けた部屋だが、壁面が黒板の  
ようにして使えるためワークショップに使える



写真右 長野のりんごを模した木の球が循環  
するからくり装置のモニュメント（ループ・ゴ  
ールドバーグ・マシン） 最初は赤の球だけを  
使っていたが、障害のある子が目で追う球が  
わからなくなる、ということから複数色にし  
た経緯がある。利用者の声を反映させている。

入館料			
[ 長野市民 ]		[ 市外からお越しの方 ]	
	平日	土・日・祝日	平日
中学生以上	300円	600円	700円
小学生	100円	300円	300円
未就学児	無料	無料	無料

※18歳以上の大1名につき、子ども（小学生・未就学児）3名まで入場できます。

写真左 料金体系を市内外で差をつけているが  
かなり差があると感じた。秋田市も動物園等  
公共施設でこれくらいやってもいいと感じた。

